

■巻頭言

経済戦略と技術士の役割

現政権が進めるアベノミクスと言われる経済政策と、北海道に関わる施策に対する技術士の役割を述べられています。アベノミクスの賛否は別として著者が言われるように、最近の我が国経済は長い低迷期からすこし光明が見えだしてきたように、私も感じています。

この経済好転を安定させるための成長戦略が重要とされ、北海道に最も関わると思われる農業水産分野における著者の函館での取り組みが紹介されています。これらの取り組みは、科学技術の高度な応用能力が発揮できるフィールドと指摘され、技術士の今後の活躍が期待できました。

(Y.K 血液 AB 型)

■報告

**道央技術士会 平成 25 年度第 2 回施設見学会
千歳空港給油施設株式会社
新千歳空港ビル雪冷熱システム・
コージェネレーションシステム**

新千歳空港を年 10 回程度利用する者として、空港内部のインフラに興味がありましたので読ませていただきました。給油システムがハイドラント方式ということで、滑走路の下は燃料用の配管が張り巡らされていると知り、少しぞっとしました。でも、次のフライトまでの短い時間で整備して給油するので、給油時間が 5 分と圧倒的に短いこの方式に納得がいきました。夏の冷房は雪冷熱システムを利用しているとのこと、我が家の雪も持って行ってくれよ、と思ったのは私だけではないと思います。我が家の町内会は 2 月の 15、16 日が排雪でした

が、東京や甲府を襲った南岸低気圧が北上して 17、18 日と暴風雪になりせっかく綺麗になった道も元の木阿弥。朝刊によると、今日は二十四節気の一つの雨水で空から降るものが雪から雨に変わる日とのこと、昔の人は猛吹雪について出勤する者の気持ちも少しは考えてくれよと、つい文句の一つも言いたくなりました。(いつものおせっかい男 MS)

リージョナルステート研究委員会

平成 25 年度第 3 回研修会

環境技術研究機構 メム メドウズ

本報告は(公財)LIXIL 住宅生活財団が、省エネルギーや低炭素社会の実現や室内温熱環境のコントロール、耐震構造など住宅を取り巻く諸課題の解決を目的に、平成 23 年に十勝の大樹町に開設した環境技術研究機構「メム メドウズ」の見学会についてのもので、[メム メドウズ]は、牧場跡地にもとからあった住宅や施設を取り壊さず土地の記憶を風情として残しながら改修した一群の建物と新設された実験住宅からなる施設です。ラボ棟は築 30 年の厩舎を宿泊施設に改造したものです。その他実験用として、壁と屋根が光を透過する二重の膜の中に温水パイプの通った断熱材をはさんだ部材でできた家や家の中で馬を飼う家や断熱材に牧草を使った家、研究用に輸入した竹を構造材として使った家などユニークな住宅が紹介されていました。

私も平成 23 年に LIXIL のキッチンや浴室やトイレ、玄関ドアを購入してリフォームしましたが、言ってくれば、そんな変な家ではなく、札幌の風情を残した普通の住宅を実験用に提供したのに。そうすれば、きっとただで建てられたな。もう、遅いっつうの。(残念男 MS)

■活動レポート

北海道スタンダード研究委員会 ワークショップで「北海道の価値」について 考えました。

北海道の総生産は国の経済対策により次第に持ち直してきているが、回復の動きは全国に比べて弱い。雇用情勢についても長く低迷が続いている。これは公的需への依存度が高い経済構造からの脱却が進まないことに起因している。

更に全国平均を上回る速さで高齢化が進んでおり、少子化と相俟って地域の商工業者の担い手の減少などが大きな課題となっている。

一方北海道の農業生産額、水産業の漁獲量・漁獲高は全国一でありながら、製造業の付加価値生産性が低く、更に高い流通コストの制約があって経済活性化の面では全国の他の地方に後れを取っていると言わざるを得ない。

これらの課題を踏まえ「北海道の価値」についてワークショップで意見をまとめ、北海道の独自性を活かした、進むべきいくつかの道を導き出した点はなかなか面白い。

今回は議論されていないが、北海道が抱える大きな課題である「高齢化」についてもこのような試みを行ってはどうかと思う。北海道は豊かな自然に恵まれ、他の地方にない四季折々の変化があり、冬の寒さも一歩家の中に入れば暖かな環境で生活できる。これらにまちづくりや福祉、医療を加えて「高齢者の住みやすい北海道」を価値の一つとして考えても良いのではないか。元気な高齢者は労働力にもなる。ワークショップの参加者に高齢者を加えて意見を聞いてみるのも意義があると思う。

今回のレポートを読んで感じた次第である。

(K.T)

防災委員会

～ふくしまから～

平成 25 年度防災研修会報告

防災委員会の都市部会が、被災地を視察していることは知っていました。なかなか復興が進まない東北の被災地。考えるところがあるのではないかと思います。

活動レポートの中で、夏井海岸 CSG 堤防は興味を引かれました。CSG はダム建設だけの工法ではなかったのです。これからも、被災地を視察されることと思います。活動レポートを楽しみにしております。

by OTN53